

小中学生向けスライド教材 ふるまちげいぎ 「古町芸妓ってなんだろう？」について

この度は、小中学生向けスライド教材「古町芸妓ってなんだろう？」をダウンロードいただき、ありがとうございます。この教材は新潟の小中学生が授業や探求学習を通して、新潟の伝統文化を代表する古町芸妓について理解を深めることを目的に制作いたしました。ご利用いただくにあたり、ぜひ一読ください。

企画・編集：新潟商工会議所、上古町編集室

●古町芸妓とは

古町芸妓は、今から200年程前より、新潟が日本で最も人口が多く物流や産業が盛んだった時代から、新潟を訪れる人をもてなす重要な役割を担っています。最盛期には400名以上の古町芸妓が活躍していたと言われていますが、社会の移り変わりの中でその数は激減し、古町芸妓の存続が危ぶまれるようになりました。そこで1987年、新潟県内の有志企業約80社が出資して、全国初の芸妓育成派遣会社「柳都振興株式会社」が設立されました。地域の人々が支える仕組みが生まれたことで古町芸妓は「新潟の誇るべき職業であり、新潟古町の伝統文化の象徴」と捉え直され、現在は21名の古町芸妓が日々古町花街で活動しています。

▶もっと知りたい方はこちら (<https://howtoniigata.jp/spot/oshiete/41923/>)

●教材制作の経緯と目的

この教材の制作は、新潟商工会議所が、新潟市上古町商店街で活動するクリエイト集団・hickory0 3travelersと編集者による情報発信チーム「上古町編集室」との協力で、令和3年度に実施した古町芸妓とのワークショップがきっかけでした。

『古町芸妓の魅力発信』をテーマにしたワークショップの中で、実際に古町芸妓から出てきたのが「新潟の小中学生（≒未来のなり手、花街の利用者）に向けて古町芸妓のことを知ってほしい、古町芸妓のいる新潟を誇りに思ってもらえたら嬉しい」という未来に対する思いでした。

これまで、地元の児童・生徒から古町芸妓のことを知ってもらうための方法は、小中学校への出張授業や地域の行事が中心でした。しかし、コロナ禍によってその機会は減少。古町芸妓たちは、未来のなり手や新潟を支える子供たちに新潟の花街文化に興味を持ってほしいと考えると同時に、子供たちに披露する機会がなくなってしまった状況に危機感を感じていました。

今回の教材では、古町芸妓が【地域にとってどんな存在なのか／どんな役割を持つ職業なのか／何かできる人たちなのか】といった観点で、小学5年生以上の児童でも理解できるようなわかりやすい言葉を使って表現しています。地域学習等で活用いただくことにより、気軽に古町芸妓について知り、さらに現在活躍する古町芸妓一人ひとりに注目して身近に感じてもらうことで、古町花街を新潟の誇れる文化として認識してもらいたいと考えています。

また、教える側の大人にとっても、古町花街を新潟の重要な伝統文化として継承することを、子供たちにどう伝えられるのか？そのヒントとして使っていただければ幸いです。

●さいごに

この教材は、小中学生に向けて古町芸妓を学ぶツールです。「よりわかりやすい言葉で」「今の古町芸妓の姿を知ってもらう」ことで自分たちの暮らす新潟を誇り、この文化を未来に繋げていくきっかけのひとつとなれたら嬉しく思います。